

大手前短期大学「社会人基礎力」の指標値

佐々木 英 洋

要 旨

本学（大手前短期大学）のカリキュラム・ポリシーにおいて、学生が身につけるべき6つの社会人基礎力「C-PLATS[®]」を掲げており、これらの能力の開発と育成を目的にカリキュラムを編成すること、また各授業におけるシラバスにおいて「C-PLATS[®]」のどの能力が育成されるかを学生に明示し、その実現に努めることを記している。現状は、これらの能力を学生が自己診断する仕組みはあるが、履修する授業とその成績によって「CPLAT」各能力がどのレベルまでついたか、客観的な数値として集計する制度は未整備である。

本稿では学生が各科目で得たGPAとシラバスに記載された「CPLAT」の能力を用いて、「CPLAT」の各能力がどれだけ授業の中で獲得できたかの「指標値」“CPLATi”の算出方法ならびにそれら活用方法について提案する。この指標値“CPLATi”により、「C-PLATS[®]」の能力の育成のためのフィードバックのための材料となることが期待される。

一例として、本学平成29年度入年生185名の1年次の成績より「CPLATi」の各数値を算出し、各学生が定期的に行う「C-PLATS[®]自己診断」の数値との相関分析を試みたので、それについても報告する。

キーワード：社会人基礎力、カリキュラムポリシー、グレードポイント、GPA、PDCA サイクル

1. ^{シーブラッ}C-PLATS[®] の概要・運用の現状

本学（大手前短期大学）のカリキュラム・ポリシー〔教育課程編成・実施の方針〕において、学生の社会人基礎力育成のために、次の6つの能力「C-PLATS[®]」の開

発と育成を目的にカリキュラムを編成すること、また各授業におけるシラバスにおいて「C-PLATS®」のどの能力が育成されるかを学生に明示し、その実現に努めることを記している：

C - Communication (コミュニケーション力)：

相手を理解し自分の考えをわかりやすく伝える力

P - Presentation (プレゼンテーション力)： 自分の考えをまとめて発表する力

L - Language Skill (言語能力)： 決められたテーマについて論理的に表現する力

A - Artistic Sense (芸術的センス)：

芸術作品、デザインへの理解力と創造活動を通じて行う表現力

T - Teamwork (チームワーク)： 集団での自分の役割がわかり協力し合える力

S - Self Control (自己管理能力)： 自分の感情を冷静におさめ、行動できる力

運用の現状として、授業担当教員(専任・非常勤)にはシラバス執筆の際、その授業を受講すると「CPLAT」のどの力がつくかを明示していただくよう依頼している(「S (Self Control)」はどの授業でも共通に培うとの認識の下、選択からは外している)。現状では、「選択する」か「しないか」のみを担当教員に求めており、各能力のレベル表示等はしていない。

科目名	コンピュータ演習 (単独受講可能科目)		開講曜日・時限	木曜4限	
単位数	1.0	授業形態	実習・実技		
担当教員名【代表】	佐々木 英洋 (Hideyou Sasaki)				
担当教員名					
ユニット名	共通教育科目 (必修科目)		ここでは「P・L・T」を選択 (これらの力がつくことを明示)		
先修条件					
C-PLAT	C	P	L	A	T
授業のねらい	コンピュータを情報活用の道具として利用し、勉学や仕事に活用できるようになるために、インターネット、電子メール、ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を取得することを目標とします。また、OCNET (大手前学園の情報ネットワーク) を勉学に活用できるようにすることも大きな目標です。				
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・次回授業で学ぶ用語・ソフトの操作方法を調べること ・前回授業で学んだ内容・ソフトの操作方法を復習すること ・指定されたタイピングソフトでタッチタイピングの習得のための練習を行うこと ・課題として出題されたファイルを作成すること 				
授業計画					
回	主 題	内容・授業方法・予習および時間・復習および時間・得られる成果など			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・OCNETの利用 ・インターネット ・ウィンドウスの基本操作 	OCNET、ネットワークドライブの利用法について学ぶ (L) Webブラウザを使ってインターネットに接続する方法を学ぶ (L) ウィンドウスの画面構成、基本操作について学ぶ (L) 予習・復習：計1時間			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピング練習 ・Wordの基本操作 ・文字列・文書入力 	タッチタイピング修得のため、タイピング練習を行う (L) Microsoft Word 2013の画面構成、基本操作について学ぶ (L) 文字列・文章の入力・変換について学ぶ (L)			

図1 シラバスの例

学生には卒業年次までに5回（学期期初・期末）、どれだけ「C-PLATS[®]」の能力を獲得できたかを自己診断し集計する仕組みはある。「C-PLATS[®]自己診断シート」として各能力のあらかじめ定められた設問に回答しながら9段階評価を行い集計するというものである（詳細は略）。

しかし履修する授業とその成績によって「CPLAT」各能力がどのレベルまでついたか、客観的な数値として集計する制度は未整備に留まっている。

2. 指標値 ^{シーブラッティ} CPLAT_i

2.1 CPLAT_iの定義

シラバスの「CPLAT」と「GPA」から算出する客観的な数値としての能力の「指標値」を導入すべく“CPLAT_i”（CPLAT index）を以下で定義する：

その科目のグレードポイント（GP）を、シラバスに記載された「CPLAT」にそのままの値で振り分け、それを履修したその科目で得られた「CPLAT」の各能力値とみなす。例えば、先ほどの例の「コンピュータ演習」[P・L・T]のGPAが「3.0」だった場合、この科目においてP=3.0、L=3.0、T=3.0が獲得されたとみなす。

GPAを算出するのと同様に、履修した各科目の「CPLAT」の能力ごとに

$$\text{[能力値} \times \text{単位数の総和]} \div \text{[その能力を指定している科目の総単位数]}$$

を計算して求めた値（0.0～4.0）を「CPLAT_i」と定義する。

この値は、あくまで能力の向上の度合いの傾向を示す「指標」であるとした上で、

- 4.0：「その能力が十分あり、自ら積極的に活用できる傾向にある」
- 3.0：「その能力が十分あり、適切に活用できる傾向にある」
- 2.0：「その能力の重要性を十分理解している」
- 1.0：「その能力の重要性を最低限理解している」
- 0.0：「その能力の重要性の理解が不十分である」

という意味を持つものとする。

2.2 CPLAT_iの計算例

CPLAT_iの計算例を挙げる。例えば、ある学生・学期の履修科目・成績が以下の表のとおりとする。各科目においてそれぞれ単位数、CPLATのどの力がつくのか、担当教員より事前に指定されており、シラバスにも記載されている。例えば、「コン

「コンピュータ演習」は1単位、「P」「L」「T」の力がつく、ということが示されている。他の科目も同様。

成績が次のとおり確定したとする。「コンピュータ演習」のグレードポイント (GP) は3.0、「ビジュアルアート A」4.0、……等。

表1 ある学生・学期の履修科目・単位数・CPLAT・成績

履修科目	単位数	C	P	L	A	T	成績 (GP)
コンピュータ演習	1		○	○		○	3.0
ビジュアルアート A	2			○	○		4.0
調理実習 A	2	○			○	○	1.0
日本語表現法	1	○		○	○		2.0
接客実務演習	2	○	○	○		○	3.0
(GPA)							2.63

各科目の GP を指定された各「CPLAT」の能力に割り振る。例えば「コンピュータ演習」であれば「P」「L」「T」にそれぞれ3.0の値を振り分ける。以下他の科目も同様にして GP の値を「CPLAT」の各値として割り振る。

これらの値を基にして、上に述べた方法で各「CPLAT_i」を算出する。例えば「C」においては

$$〔調理実習 A (の GP)〕 1.0 \times 2 (単位) + 〔日本語表現法〕 2.0 \times 1 + 〔接客実務演習〕 3.0 \times 2 = 10.0$$

を、これらの科目の総単位数

$$〔調理実習 A (の単位数)〕 2 + 〔日本語表現法〕 1 + 〔接客実務演習〕 2 = 5 (単位)$$

表2 CPLAT_iの算出結果

履修科目	単位数	C	P	L	A	T	成績 (GP)	CPLAT _i					
								C	P	L	A	T	
コンピュータ演習	1		○	○		○	3.0		3.0	3.0			3.0
調理実習 A	2	○			○	○	1.0	1.0				1.0	1.0
日本語表現法	1	○		○	○		2.0	2.0		2.0	2.0		
ビジュアルアート A	2			○	○		4.0			4.0	4.0		
接客実務演習	2	○	○	○		○	3.0	3.0	3.0	3.0			3.0
(GPA)							2.63	2.00	3.00	3.17	2.40	2.20	

で割り、 $10.0 \div 5 = 2.00$ 、すなわち C の能力値 = 2.00 と算出する。

同様にして他の 4 能力についても $P = 3.00$ 、 $L = 3.17$ 、 $A = 2.40$ 、 $T = 2.20$ と算出される。これらが各能力の「CPLAT_i」である。

この結果から例えば、 $GPA = 2.63$ に比べて、「L (3.17)」「P (3.00)」の能力がそれぞれ向上している傾向にあるが、「C (2.00)」「A (2.40)」「T (2.20)」は GPA に比べて低くなっており、今後向上させる余地があるとみなせる、というような分析ができる。

3. CPLAT_i を活用した PDCA サイクル

CPLAT_i を算出することにより、例えば次のような本学のカリキュラム・ポリシーに沿った PDCA サイクルが期待できる。

〔Plan〕 各科目において、授業内容計画に加えて CPLAT の選定を各授業担当教員が行う。

〔Do〕 授業を実施後、成績評価を確定すると、CPLAT_i の算出がなされ各学生の CPLAT の傾向が示される。

〔Check〕 CPLAT_i の傾向分析や、「C-PLATS[®] 自己診断シート」に記載された各学生の自己診断との比較を行うことが可能になる

〔Act〕 FD（授業改善）活動やフィードバック、すなわち授業内容・授業手法の見直しの判断材料の一つとする。そしてその効果を次の授業内容計画に生かす。

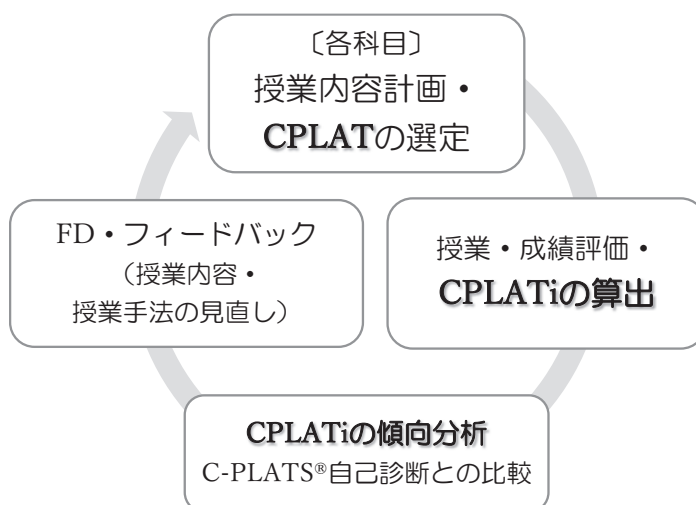


図 2 CPLAT_i を活用した PDCA サイクルの例

4. CPLATiの算出例

本学平成29年度入年生の1年次の成績より「CPLATi」の各数値を算出し、各学生が定期的に行う「C-PLATS® 自己診断」の数値との相関係数を求めその数値の分析を試みた。

4.1 平成29年度開講科目

平成29年度開講科目数は延べ287科目であった。これらの科目に対して、各CPLATが該当する延べ科目数は以下の通りである：

表 3 各CPLATが該当する延べ科目数（平成29年度）

C	P	L	A	T
174	183	225	140	139

4.2 分析内容

平成29年度入年生185名の1年次のCPLATを算出し、各学生が自己診断で記入している「C-PLATS® 自己診断」（以下「自己診断」：各能力を9段階で自己診断；「9」が最高）の数値との相関係数を求めた。

この際、上記全学生を、各「CPLATi」の値に基づいて上位60名・中位65名・下位60名の3グループに分けて各グループの傾向分析を試みた。

また、自己診断の数値は次の数値を対象とした：

- ① 4月入学後 ② 春学期終了時 ③ 秋学期終了時
 ④ 上記②-①（4月～春学期の伸び） ⑤ 上記③-①（4月～秋学期の伸び）
 （いずれも記入がない場合、その値は除外して相関係数を求めている）

4.2.1 全体の平均値・相関係数

まず、該当学生185名全員のCPLATi、自己診断の平均値を以下に示す：

表 4 CPLATiの平均値

	C	P	L	A	T
年間	2.39	2.46	2.47	2.37	2.48
春学期	2.39	2.48	2.48	2.35	2.50
秋学期	2.39	2.46	2.46	2.38	2.47

表5 C-PLATS® 自己診断の平均値

	C	P	L	A	T
①4月	5.45	3.41	3.05	3.16	5.43
②春終了	6.26	4.47	4.50	3.99	6.15
③秋終了	6.68	4.93	5.31	4.23	6.59
④4月-春	0.74	1.06	1.40	0.77	0.71
⑤4月-秋	1.24	1.56	2.31	1.09	1.18

また、185名全員の各CPLATiならびに自己診断との相関係数を算出したものを示す。

表6 185名全員のCPLATiと自己診断との相関係数（年間）

	C	P	L	A	T
①4月	-0.13	-0.08	0.01	0.03	-0.04
②春終了	0.01	0.00	0.08	0.00	-0.02
③秋終了	0.01	0.06	0.26	0.06	0.09
④4月-春	0.21	0.10	0.09	-0.04	0.12
⑤4月-秋	0.19	0.13	0.25	0.11	0.19

表7 同（春学期）

	C	P	L	A	T
①4月	-0.05	-0.05	0.05	0.07	-0.04
②春終了	0.09	0.03	0.11	0.03	-0.01
③秋終了	0.06	0.06	0.26	0.11	0.08
④4月-春	0.20	0.11	0.08	-0.05	0.11
⑤4月-秋	0.16	0.11	0.22	0.09	0.16

表8 同（秋学期）

	C	P	L	A	T
①4月	-0.21	-0.10	-0.03	-0.01	-0.08
②春終了	-0.09	-0.02	0.03	0.00	-0.08
③秋終了	-0.06	0.05	0.22	0.01	0.06
④4月-春	0.21	0.09	0.08	0.01	0.11
⑤4月-秋	0.21	0.15	0.27	0.12	0.20

年間・春・秋とも特に

- ・「C」④「4月-春」・⑤「4月-秋」
- ・「L」③「秋終了」・⑤「4月-秋」
- ・「T」⑤「4月-秋」

にやや正の相関を示している。つまりこの3能力はCPLATiで算出された値と、学生自身の自己診断で示した能力・伸びの度合いが相関を持つ傾向にある、ということを示している。

4.2.2 上位60名の CPLATi と自己診断との相関係数

各 CPLATi 上位60名の自己診断との相関係数を、年間・春学期・秋学期ごとに求めたものを以下に示す。

表9 上位60名の CPLATi と自己診断との相関係数 (年間)

上位60名	C	P	L	A	T
①4月	-0.17	0.04	-0.11	-0.11	-0.01
②春学期	-0.05	0.18	-0.23	-0.17	-0.14
③秋学期	-0.09	0.15	-0.15	-0.13	0.00
④4月-春	0.18	0.15	-0.12	-0.19	-0.06
⑤4月-秋	0.10	0.16	-0.02	-0.05	0.05

表10 同 (春学期)

上位60名	C	P	L	A	T
①4月	0.17	0.14	0.03	0.08	-0.11
②春学期	0.21	0.23	-0.15	0.10	-0.16
③秋学期	0.25	0.18	-0.15	0.06	-0.04
④4月-春	0.07	0.07	-0.21	-0.02	0.06
⑤4月-秋	0.12	0.08	-0.16	0.03	0.12

表11 同 (秋学期)

上位60名	C	P	L	A	T
①4月	-0.12	0.03	-0.04	-0.22	0.08
②春学期	-0.03	0.31	-0.15	-0.29	-0.12
③秋学期	-0.01	0.06	-0.02	-0.26	-0.02
④4月-春	0.07	0.35	-0.10	-0.21	-0.26
⑤4月-秋	0.13	0.05	0.03	-0.14	-0.15

どの学期も「C」「P」にやや正の相関がみられる。すなわち自己評価が高い、あるいは伸びがあったと自己診断し、実際 CPLATi も高い傾向にある結果となった。一方、「L」「A」「T」にやや負の相関がみられ、自己評価・伸びは低いが、CPLATi は高い傾向にある。

4.2.3 中位65名の CPLATi と自己診断との相関係数

各 CPLATi 中位65名の自己診断との相関係数を、年間・春学期・秋学期ごとに求めたものを以下に示す。

表12 中位65名の CPLATi と自己診断との相関係数（年間）

中位65名	C	P	L	A	T
① 4月	0.05	-0.11	-0.16	-0.11	0.10
② 春学期	0.01	-0.07	-0.12	-0.09	-0.05
③ 秋学期	-0.05	-0.11	-0.08	0.00	-0.06
④ 4月-春	-0.04	0.02	0.02	0.03	-0.19
⑤ 4月-秋	-0.09	-0.04	0.02	0.16	-0.19

表13 同（春学期）

中位65名	C	P	L	A	T
① 4月	0.05	-0.02	-0.24	0.12	-0.07
② 春学期	0.02	0.13	-0.14	0.17	0.02
③ 秋学期	-0.04	-0.05	-0.13	0.21	-0.09
④ 4月-春	-0.06	0.18	0.05	0.13	0.06
⑤ 4月-秋	-0.16	-0.08	0.04	0.17	-0.04

表14 同（秋学期）

中位65名	C	P	L	A	T
① 4月	-0.11	-0.07	-0.03	-0.11	0.11
② 春学期	-0.17	0.12	0.00	0.00	0.12
③ 秋学期	-0.17	0.08	0.15	0.00	0.08
④ 4月-春	0.02	0.23	0.10	0.22	-0.02
⑤ 4月-秋	-0.01	0.17	0.13	0.26	-0.05

「P」「A」にやや正の相関がみられる。

4.2.4 下位60名の CPLATi と自己診断との相関係数

各 CPLATi 下位60名の自己診断との相関係数を、年間・春学期・秋学期ごとに求めたものを以下に示す。

表15 下位60名の CPLATi と自己診断との相関係数 (年間)

下位60名	C	P	L	A	T
① 4月	-0.12	-0.18	-0.22	0.31	0.10
② 春学期	0.06	-0.22	-0.11	0.18	0.03
③ 秋学期	0.07	0.01	0.11	0.30	0.20
④ 4月-春	0.17	-0.18	0.09	-0.12	-0.10
⑤ 4月-秋	0.21	0.14	0.26	-0.02	0.11

表16 同 (春学期)

下位60名	C	P	L	A	T
① 4月	0.00	-0.15	-0.30	0.18	-0.04
② 春学期	0.03	-0.11	-0.06	0.06	-0.01
③ 秋学期	0.02	0.00	-0.02	0.26	0.11
④ 4月-春	-0.01	-0.05	0.17	-0.05	0.07
⑤ 4月-秋	0.02	0.11	0.19	0.11	0.16

表17 同 (秋学期)

下位60名	C	P	L	A	T
① 4月	-0.30	-0.11	-0.16	0.20	-0.02
② 春学期	-0.12	-0.07	-0.17	0.15	-0.06
③ 秋学期	0.00	0.04	0.13	0.05	0.05
④ 4月-春	0.22	-0.02	-0.03	-0.09	-0.05
⑤ 4月-秋	0.31	0.11	0.31	-0.20	0.08

「A」の⑤4月・秋学期、「C」「L」の③秋学期・⑤4月-秋にやや正の相関があり、その数値も上位・中位グループに比べるとやや大きい。すなわちこれらの数値に対して自己評価として伸びが低いと学生自身が判断し、実際 CPLATi としても低い傾向にある。一方、年間の「P」にやや負の相関がみられ、自己評価は高いが、CPLATi は低い傾向にあることが示されている。

5. まとめ

こういった「指標値」の導入は本学では実際にはまだなされていない。

例えば性質が異なる性質が異なる「GPA」と「C-PLATS[®]」から求めた数値に意味があるのか、という疑問が起こるであろうことは予想される。確かに、一見かなり乱暴に求めた数値であるという印象を与えかねないことは否定できない。

しかし、本学のカリキュラム・ポリシーにおいて授業の中で6つの社会人基礎力を育成することが表明されており、逆にいえばそのことによって、6つの力の集積が学修成果（成績）となって現れるとみなすこともできる。よって学修効果を測定し「フィードバック」のための指標（目安）としては十分有効なものではないかと考え、この「CPLATi」の導入を提案する次第である。

実際、平成29年度入学生の数値傾向を見ても、指標値と自己診断の値の間にある程度相関を示す能力・項目もあった。こういった数値を追跡調査することが「学習効果の測定」につながると期待される。